

柔らかなココロ



「田中志歩という娘（こ）」

試合開始 30 秒を過ぎた時、大内刈から流れるように小内刈に入り、バランスを取ろうとする相手を上手に制し背中を畳へと導き獲得したポイントは「有効」。その後、相手も必死に反撃したものの効無し。そして、時間を知らせるブザーが高らかに鳴り響いたその瞬間、山口県選手団、関係者は会場の至る所で拍手をし、握手を交わし、勝利を一緒に分かち合った。

今年の 8 月に島根県出雲市で開催されたインターハイ 70 kg 級決勝のシーンを私なりに切り取ってみた。そう、インターハイチャンピオンがまた生まれたのだ、山口県から。

昨年のインターハイは 3 回戦負け。今年 3 月に開催された高校選手権は決勝で敗れ 2 位。期待され続けたものの減量に苦しみ、思うような結果を残せず、ひっそり鳥居監督と 2 人涙したのは 1 度や 2 度ではなかったはずだ。

階級を上げ挑んだインターハイでの優勝は正直身近にいる関係者はやっと日本一になれたという思いが強かったに違いない。

私がみる普段の志歩ちゃんは、柔道選手特有のガツガツ感が少なく、どこか遠くを見ているようで近づくと分け隔てなくニコニコ笑顔。カメラを向けられるときちんとおどけたポーズも取れる、愛されキャラ。まさに“天真爛漫”という言葉が良く似合う選手だ。

172 cm という身長からすらりと伸びた手足で繰り出される伸び伸びとした技は誰もが未来を感じられる・・・

彼女はこれから先、間違いなく日の丸を胸に様々な大会で活躍する選手となるだろう。しかし、勝ち続ける事は容易な事ではない。常識にとらわれず常に進化を求め食欲に自分のベストを超えた先に栄光が待っている。

そして、そのニコニコ笑顔がテレビいっぱいに映る日が 2020 東京オリンピックであることは決して夢ではないと思うのは私だけだろうか。

さあ、大野・原沢・・・・・・・・・・・・・・・・田中と、続けるか？！

楽しみだ、本当に。

近藤優子